

(平成 24 年 8 月 7 日更新)

## 米国での 4 例目の牛海綿状脳症 (BSE) 確認事例について

以下は、米国農務省及び米国食品医薬品局の公表情報に基づくもの。

(参照 : <http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navtype=SU&navid=BSE>

[http://www.aphis.usda.gov/newsroom/2012/05/pdf/bse\\_update\\_statement.pdf](http://www.aphis.usda.gov/newsroom/2012/05/pdf/bse_update_statement.pdf)

[http://www.aphis.usda.gov/newsroom/2012/08/bse\\_update.shtml](http://www.aphis.usda.gov/newsroom/2012/08/bse_update.shtml)

<http://www.fda.gov/AnimalVeterinary/GuidanceComplianceEnforcement/ComplianceEnforcement/BovineSpongiformEncephalopathy/ucm314247.htm>)

### <当該牛の概要>

- 10 歳 7 か月齢、ホルスタイン種・雌、乳牛 (最終飼養地は、カリフォルニア州トゥーレア郡の酪農場 (約 1,400 頭飼養))。
- 当該牛は、歯列により少なくとも 5 歳以上、農場の記録から 2001 年 9 月 25 日生まれであることを確認。
- 歩行不能を示したため安楽死処分となった後、米国で実施されている通常サーベイランスで感染を確認。なお、死体は埋却処分済み。(食肉処理 (と畜場に出荷) はされておらず、食肉として流通していない。)
- 非定型 BSE (L 型) (カナダ及び英国の国際獣疫事務局リファレンス研究所においても確認。)
- 当該 BSE 牛は、検査後、容器に密閉の上、連邦法、州法及び地域条例の全ての規則に従い、認定埋却地に埋却。

### <疫学関連等>

- 発生農場を移動制限。
- 当該牛から過去 2 年間に生まれた産子 (2 頭) のうち、一頭は死産。一頭は、今回 BSE 検査を実施し、陰性。
- 発生農場には、出生コホート牛\*がないことが確認され、移動制限は

解除された。

\*：陽性牛の出生日前の1年間から出生から1年間までの24か月間の期間中に陽性牛の出生農場で生まれた全ての牛。本件については、2000年9月25日から2002年9月25日までの間に生まれた牛。

- 発生農場から売却され、出生コホート牛の可能性のある牛について調査を行ったところ、多くは当該農場で死亡しているか、と畜場やと畜牛購買者に販売されていた。

#### <飼料>

- 当該 BSE 牛が生まれた 2001 年 9 月から現在までの間に、当該 BSE 牛が飼養された全ての施設への飼料の搬入元である 12 社を調査した。
- この結果、同期間内にこれら全ての飼料供給先で（BSE に関する飼料規制上の）禁止物質が使用されたことはなく、政府による施設（12 社）の BSE 検査において指摘事項は無く、BSE の飼料規制を遵守していたことを確認。

(参考) 米国における BSE の発生状況

確認年月	最終飼養場所	年齢（月齢）	備考
2003年12月	ワシントン州	80か月齢	カナダ産
2005年6月	テキサス州	12歳（推定）	非定型
2006年3月	アラバマ州	10歳以上（推定）	非定型
2012年4月	カリフォルニア州	10歳7か月	非定型